

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	若葉保育園
日時	令和7年10月13日

1. 活動テーマ

<テーマ>

0歳児…葉っぱに触れてみよう

<テーマ設定理由>

・外遊び中に子どもが落ち葉を一枚拾い、観察をしていたので、葉に触れたり、張り子ライトを作る活動にした。

2. 活動スケジュール

・2名参加する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定



4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・いろいろな大きさの葉を保育士が見せて、手に届きやすい所に並べて置く。
- ・子どもの様子を見守り、ゆったりして雰囲気の中で関わっていく。
- ・子どもの動きに合わせて、葉を持って動かしたり、上から落としてみる。
- ・子どもの感じたこと、できたことを認めて言葉や動作で伝え共感する。
- ・張り子ライトを子どもと一緒に作る。
- ・子どもが手に取った葉を張り子の上にボンドで貼って見せる。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>



- ・目の前の葉を見て、すぐに手を伸ばして取る。
- ・保育士は子どもの様子を見守る。
- ・両手でしっかりと持ち、横に引っ張ってちぎろうと繰り返しながらやるとちぎれる。
- ・「できたね」と様子を見て言葉をかけると、保育士の顔を見て微笑みちぎれた葉を見せる。
- ・保育士は、葉を選んでいる様子を見る。
- ・枝のある葉を選び、小さな葉がいくつもついている様子をじっと見る
- ・一枚一枚引っ張って取る。取った葉の裏を眺める。
- ・最後に残った枝を親指と人差し指でしっかりと持ち、横に揺らして微笑む。
- ・保育士も一緒に揺らして「ゆらゆら」と揺らしてみる。
- ・保育士が張り子を作り、子どもが手に取った葉を張り子の上にボンドで貼って見せる。
- ・保育士が張っていると子どもは、手を伸ばして一緒にやっている気分を感じていた。
- ・でき上がった張り子の中に灯りを入れてつけると、明るくなったことに手を叩いて喜び、張り子についている葉を取ろうとする。

5. 振り返り

- ・桜の葉を初めて触れてから、椿の葉、風船かずら、ふきの葉など大きさや感触の違う葉に触れてきた。葉を使って氷にすると、中の葉が取れないことに表情を変えて考える様子や濡れた葉を握って小さくなったり、手に張りつく感触を感じた。「すくわく」を重ねることに葉に興味を持ち、葉一枚をしっかりと持って、ちぎること、揺らすことを喜び、葉をじっくりと見るが多くなった。今回の活動では、材料もシンプルに葉だけを集めることで、見るとすぐに手を伸ばしていた。視線は、興味のある葉を選んでいる表情に見えた。大人が決めつける言葉をしないように側でそっと見守り、子どもの表情や仕草を見て心えるようにした。葉を引っ張る、ちぎるだけでなく、葉の大きさや形を見て選ぶようになった。言葉かけが、少なくとも保育士の表情だけで安心し、子どもからの仕草や声を聞くことができた振り返る。経験を積み重ねることで観察力、好奇心が育ってきているように感じた。これからも外に出て落ち葉などに触れる機会を多くし、子どもが葉に目を向けている様子を見つけ、葉の色や形などを感じられるように関わっていこうと思う。